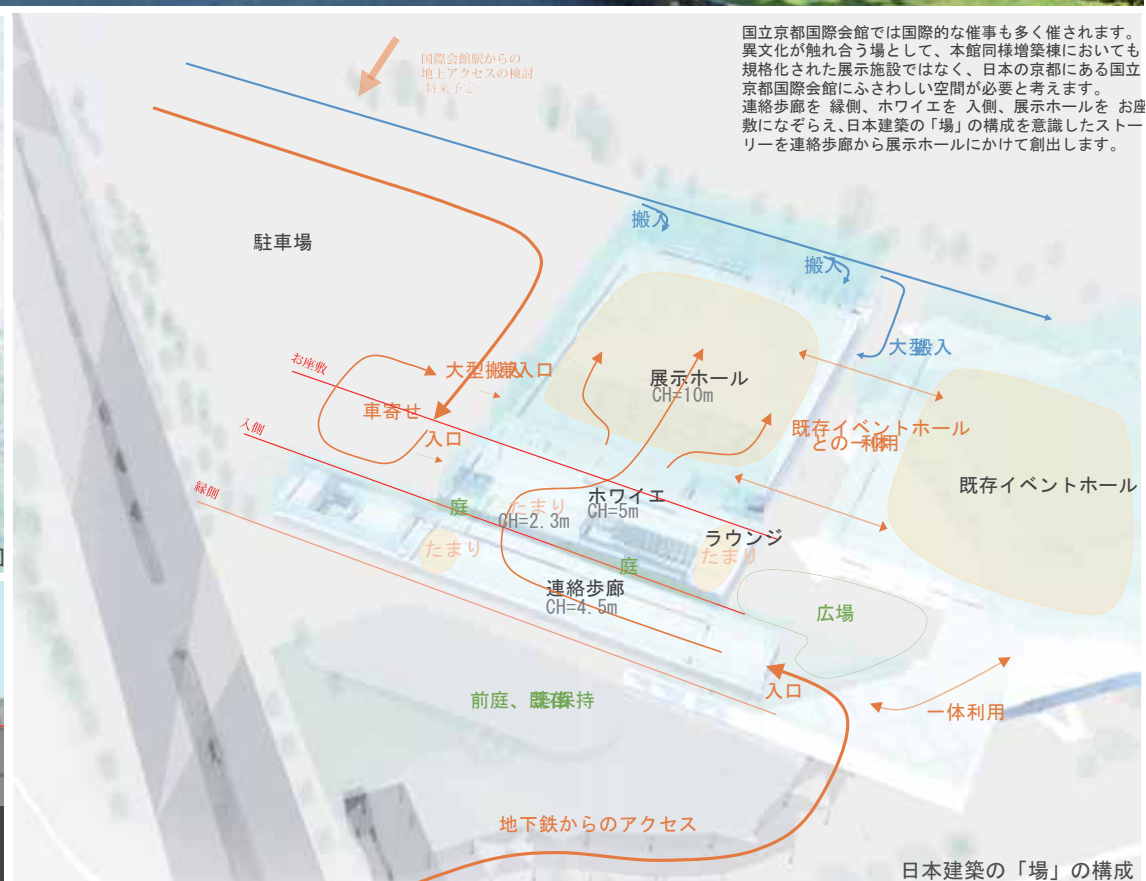


国立京都国際会館展示施設



50年間大切に守られてきた国立京都国際会館の設計思想を、これからの50年につなぐ



国立京都国際会館では国際的な催事も多く催されます。異文化が触れ合う場として、本館同様増築棟においても規格化された展示施設ではなく、日本の京都にある国立京都国際会館にふさわしい空間が必要と考えます。連絡歩廊を縁側、ホワイエを入側、展示ホールをお座敷になぞらえ、日本建築の「場」の構成を意識したストーリーを連絡歩廊から展示ホールにかけて創出します。

Concept
 既存建築との調和と革新
 既存イベントホールの構成を尊重し、ホールの肩の高さから下を基壇と考え、そこから上を屋根と捉えます。基壇部分は形状、質感など、既存イベントホール基壇部分と調和したデザインとします。一方屋根部分に関しては、開館50年という時間の経過を捉え、現代の技術とセンスを存分に発揮できる現代的なデザインをめざします。
 豊かな自然環境に協調するデザイン
 比叡山や宝ヶ池等、計画地は恵まれた自然環境に囲まれています。屋根のガラスの局部ダブルスキンはその透明感で視線を通し、周辺環境に溶け込み、先進性と調和性を表現します。
 多様性のある空間構成
 連絡歩廊を縁側、ホワイエを入側、展示ホールをお座敷になぞらえ、日本建築の「場」の構成を意識したストーリーを連絡歩廊から展示ホールにかけて創出します。
 大空間を有しながら、多様な場を感じられる空間構成とします。

計画概要
 国立京都国際会館は昭和41年に整備された我国最初の国立の国際会議場である。開館以来、COP3、世界水フォーラム等の重要な国際会議の場として活用されてきた。しかしながら、既存施設の状況は、近年の国際会議の大規模化を背景に展示スペースなどが不十分となっており、仮設テントでその場をしのがざるを得ない等、十分な機能を果たせない状況である。また築後50年近くが経過し、計画的な大規模改修の時期に来ているが、その間も国立の国際会議場としての機能を維持するためには、代替施設が必要状況である。さらには、先般2020年の東京オリンピック開催が決定し、これを契機として本施設で開催される国際会議の増加が見込まれる中、早急に所要の対応を行う必要があり、展示施設の整備を行うものである。

建築概要

名称	国立京都国際会館展示施設
計画地	京都市左京区岩倉大鷲町4-2-2番地
地区地域	市街化調整区域、法第22条地域、風致地区 眺望空間保全地区(24)円通寺
主要用途	展示場
敷地面積	154,246.56㎡
建築面積	3,795.79㎡
延床面積	4,527.09㎡ (容積対象床面積 / 50,601.59㎡)
建築率	17.77%
容積率	32.81%
構造形式	鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
階数	地上2階
高さ	建物高さ: 15.30m 軒高: 15.20m
発注者	国土交通省近畿地方整備局
設計	株式会社日建設計

